

“上星期…” “这星期…” “下星期…” について

小 川 郁 夫

1. “这星期六” それとも “下星期六” ？

北京语言学院出版社《学汉语》という雑誌の1992年6月号に〈“这星期六” 还是 “下星期六”〉と題する短文が掲載されている¹⁾。筆者は文鑑という人で、この短文は中国語を学んでいる外国人との間に生じたある言葉による誤解を内容としている。その言葉とは中国語の“下星期六”である。以下にその短文の一部と日本語訳を挙げる。

彼得在中国学了一年中文，不久要回国了。一天晚上他去访问他的中国老师。老师想，彼得很快要离开中国了，应该请他吃一次中国饭，不巧孩子病了，这个周末不行，于是他问彼得：

“下星期六你有空吗？ 我想请你来我家吃顿中国饭。”

“有空，谢谢你，几点钟？”

“晚上七点吧。”

过了三天是星期六，老师一家人刚吃完晚饭，忽然有人敲门，开门一看，是彼得拿着一束鲜花来了。老师感到既意外又尴尬，请彼得坐下后，只好说：

“你来我很高兴，只是我什么也没准备，那天我说是下星期六请你来吃饭，不是今天。”

“那天老师说下星期六请我吃饭，不就是今天吗！”彼得眨了眨蓝眼睛，认真地说。

这场误会肯定是对“下星期六”的不同理解造成的。上课时，老师告诉学生，“上星期”就是“last week”、“这星期”就是“this week”、“下星期”就是“next week”。这当然并不错，但在实际运用时，例如“上星期六”、“下星期六”并不总和“last saturday”、“next saturday”相对应。

汉语中“下星期六”是以说话时所在的那个星期为参照点，如上例中那位老师是在星期三说“下星期六”，那么一定是过了那个所在星期后的星期六，相距时间为10天。

ピーターは中国で中国語を1年間学び、間もなく帰国するところであった。ある夜彼は中国人の先生を訪ねた。先生は、ピーターが間もなく帰国するので、一度彼を招いて中国料理をごちそうしたいと思ったが、あいにく子供が病気でこの週末は無理なので、ピーターに尋ねた。

「“下星期六”は暇ですか。我家で中国料理をごちそうしたいのですが。」

「暇です。ありがとうございます。何時ですか。」

「夜の7時にしましょう。」

3日後は土曜日であった。先生一家がちょうど夕食を終えた時突然誰かがドアをノックした。ドアを開けて見ると、ピーターが花束を持って来ているのである。先生は意外に感じながらも気まぜい思いで、ピーターを座らせた後で、こう言うほかなかった。

「来てくれてとてもうれしいのですが、何も準備してありません。あの日私は“下星期六”にあなたを食事に招待すると言ったのであって、今日ではありません。」

「あの日先生は“下星期六”に私を食事に招待してくれると言いましたから、今日ではないですか！」彼は青い目を瞬かせながら、真面目な顔つきで言った。

この場合の誤解は間違いなく“下星期六”に対する異なる理解

に起因するものである。授業の時、先生は学生に“上星期”“这星期”“下星期”はそれぞれ“last week”“this week”“next week”の意味であると説明する。これはもちろん間違いではない。しかし、実際にこれらの言葉を運用する時には、例えば“上星期六”と“下星期六”は必ずしも“last saturday”“next saturday”とは一致しないのである。

中国語においては、“下星期六”は話をしている時を含むその週を起点とし、例えば上例のあの先生のように水曜日に“下星期六”と言ったのであれば、間違いなくその週が終わった後の土曜日、すなわち10日後を指すのである。

2. “这星期天”は特定できるか？

1に挙げた短文〈“这星期六”还是“下星期六”〉の内容を、次のようなカレンダーを示して確認してみることにする。

[カレンダー I]

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	⑮	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

1の短文で、ピーターと先生が食事の約束をしたのは水曜日である。その日を仮にカレンダー I の○で囲った日、すなわち「15日」とする。

「その週の土曜日」すなわち「18日」のことを中国語では“这星期六”と言う。従って、“下星期六”と言えば、それは「その翌週の土曜日」すなわち「25日」を指すことになる。

英語の“next”は「(今から見て) 今度の」という意味である。従って、

「15日」に“next saturday”と言えば、それは「今度の土曜日」すなわち「18日」を指す。ピーターは先生の言った“下星期六”の“下”を“next”の意味に解釈したのである。これは明らかにピーターの誤解であって、短文の筆者の説明は全く正しい。

ところで、「先週」のことを中国語では“上星期”と言う。この短文では“上星期”については具体的に述べられていないが、全体の流れから推察すると、「先週の土曜日」すなわち「11日」のことは、中国語では“上星期六”と言うことになると考えられる。

筆者の語感によれば、日本語では「11日」のことを「先週の土曜日」と言う他、「この前の土曜日」と言うこともできる。また、時として「この土曜日」と言うこともできる。例えば、「11日」にどこかに着いたような時、「私はこの土曜日に着きました」などと言う場合である。中国語では「11日」を指して“这星期六”とは決して言わないのであろうか。

話を簡単にするために、ここではまず“这星期天”を取り上げる。今日を仮にカレンダー I の○で囲った日、すなわち「15日」とすると、“这星期天”というのは「12日」を指すのであろうか、それとも「19日」を指すのであろうか。

次の対話で検討してみよう。

[1] 你打算什么时候回国？（あなたはいつ帰国するつもりですか）

我打算这星期天回国。（私は“这星期天”に帰国するつもりです）

[2] 你是什么时候到的？（あなたはいつ着いたのですか）

我是这星期天到的。（私は“这星期天”に着いたのです）

対話 [1] [2] の4つの例文はすべて自然な中国語である。ここに用いられた2つの“这星期天”は「何日」を指すのであろうか。4人の中国人インフォーマント²⁾に確認したところ、全員から次のような同じ解答を得た。

対話 [1] の“这星期天”は「19日」を指し、対話 [2] の“这星期天”は「12日」を指す。

“这星期天”が場合によっては異なる日を指すのである。つまり，“这星期天”という言葉はこれだけでは「19日」を指すのか、「12日」を指すのか特定することはできない。

これは1週間が何曜日から始まるかという問題とも関係があるように思われる。現在のカレンダーは日本でも中国でも一般に日曜日から始まっているが、1週間は月曜日から始まると考える場合も非常に多い³⁾。従って、「19日」を「今週の最後の日」ととらえることは可能である。

では、対話[2]のように「12日」を“这星期天”と言う場合、発話者は1週間が日曜日から始まると考えたのであろうか。どうもそれだけではないように思われる。

以下にいくつか例を挙げて、“上星期…” “这星期…” “下星期…”の指す日について考察していく。

3. カレンダー I を用いた調査

2で挙げたカレンダー I をもう1度取り上げる。

[カレンダー I]

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	⑮	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

カレンダー I の○で囲った日すなわち「15日」に“这星期天”と言った場合、「12日」と「19日」の2つを指す場合があることについて2で述べたが、それは4人の中国人インフォーマントに本稿の主要内容となる以下のような調査を行って得た結果の一部である。

今日を、カレンダー I の○で囲った日すなわち「15日」とする。そして

「私」なる人物がその後の1週間以内に中国から日本に帰国しようとして
いる。

「22日」に帰国する場合、次のように言うか。

我打算这星期三回国。××××

我打算下星期三回国。○○○○

例文の後の「○」は「言う」という回答、「×」は「言わない」という
回答を示す。4人の中国人インフォーマントに対して調査を行ったため、
1つの例文につき4つずつ回答が挙げてある。なお、後で出てくる「？」
は「言うかもしれない」「言う人もいるだろう」などの不確かな回答を示
す。また、4つの回答を順に、4人のインフォーマントA、B、C、Dか
ら得られたものとする。

今挙げた「22日」に帰国する場合については、「22日」がちょうど7日
後の水曜日であるため、全員が“下星期三”と答えた。

カレンダーIを用いた調査の結果を、もう1度『22日』に帰国する場
合」を含めて以下に挙げる。

「22日」に帰国する場合、次のように言うか。

我打算这星期三回国。××××

我打算下星期三回国。○○○○

「21日」に帰国する場合、次のように言うか。

我打算这星期二回国。××××

我打算下星期二回国。○○○○

「20日」に帰国する場合、次のように言うか。

我打算这星期一回国。××××

我打算下星期一回国。○○○○

「19日」に帰国する場合、次のように言うか。

我打算这星期天回国。○○○○

我打算下星期天回国。××××

「18日」に帰国する場合、次のように言うか。

我打算这星期六回国。○○○○

我打算下星期六回国。××××

「17日」に帰国する場合、次のように言うか。

我打算这星期五回国。○○○○

我打算下星期五回国。××××

以上の調査については、全員の回答が一致していた。ここで注意しておくことは、「19日」の日曜日までが“这星期…”ととらえられていることである。「20日」の月曜日になってはじめて“下星期…”と言う。1週間が月曜日から始まると考えれば、これは当たり前のことであると思われる。

「16日」に帰国する場合については質問を設定しなかった。「16日」のことは普通“明天”で表すからである。同様に「17日」も“后天”で表すことができるが、これは質問を設定しておいた。

ところで、筆者の語感によると日本語では、「17日」から「22日」の間のどれかの日に帰国する場合、「私は次の…曜日に帰国するつもりです」と言える。「次の」は「今度の」に置き換えてもよい。この日本語の「次の」「今度の」はちょうど英語の“next”に相当する用法である。上の調査からは、中国語では「19日」の日曜日までが“这星期…”で、「20日」の月曜日からは“下星期…”と言うという結果が出た。中国語の“下星期…”は「来週の…曜日」という意味であって、「次の…曜日」という意味ではないことが分かる。冒頭に挙げたピーターの誤解の原因はこのことに起因している。

続けて次のような調査も行った。上の調査と同様に今日を、カレンダーIの○で囲った日すなわち「15日」とする。そして「私」なる人物がその前の1週間以内に日本から中国に来たとする。

「8日」に来た場合、次のように言うか。

我是这星期三到的。××××

我是上星期三到的。○○○○

「9日」に来た場合、次のように言うか。

我是这星期四到的。××××

我是上星期四到的。○○○○

「10日」に来た場合、次のように言うか。

我是这星期五到的。××××

我是上星期五到的。○○○○

「11日」に来た場合、次のように言うか。

我是这星期六到的。○?××

我是上星期六到的。○○○○

「12日」に来た場合、次のように言うか。

我是这星期天到的。○○○○

我是上星期天到的。×?×?

「13日」に来た場合、次のように言うか。

我是这星期一到的。○○○○

我是上星期一到的。××××

「11日」と「12日」に来た場合の回答にはばらつきがある。

1週間が月曜日から始まると考えても、また日曜日から始まると考えても「11日」は明らかに「先週の土曜日」である。中国語では“上星期六”と言う。しかし、インフォーマントAは「11日」を指して“上星期六”と言う他に、“这星期六”にも「○」の判断を下している。またインフォーマントBは「?」としている。このことについてインフォーマントAに確認したところ、“上星期六”と言うと時間的な隔たりを感じ、自分では“这星期六”を多用するという答えが返ってきた。

しかし、インフォーマント全員が次の文に「○」の判断を下した。

「11日」に来た場合、次のように言うか。

我这星期六刚到。○○○○

“我这星期六刚到”の“这星期六”は「11日」を指すというわけである。この“这星期六”が「今週の土曜日」という意味ではなく、「この土曜日」という意味を持ち得ると考えると、“我这星期六刚到”という文をイン

フォーマント全員が「○」とした理由が理解できる。

「12日」の日曜日をインフォーマント全員が“这星期天”としたことについては2でも取り上げた。この“这星期天”が「今週の日曜日」なのか「この日曜日」なのかは決定しがたい。日曜日は1週間の最初の日とも最後の日とも考えられる特殊な日だからである。

「12日」を“上星期天”とする文“我是上星期天到的”に対して、インフォーマントB、Dが「？」と回答しているが、1週間が月曜日から始まるという考えに基づいて判断すれば、「12日」は「先週」に属する。しかし、インフォーマント全員が「○」ではなく、「×」もしくは「？」の判断を下しているのは、やはり“上星期…”という言葉が時間的な隔たりを感じさせるからであろう。

4. カレンダーⅡを用いた調査

ここではカレンダーⅡを用いて、また同じような調査をした結果を挙げる。カレンダーⅡと言っても、3で用いたカレンダーⅠと同じもので、ただ今日を「18日」の土曜日に指定してあるだけである。

このような調査を行ったのは、「今日」が何曜日であるかによって“上星期…”“这星期…”“下星期…”のとらえ方に違いが生じるのではないかと考えたからである。

[カレンダーⅡ]

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	⑱
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

今日を、カレンダーⅡの○で囲った日すなわち「18日」とする。そして

「私」なる人物がその後の1週間以内に中国から日本に帰国しようとしている。

「25日」に帰国する場合、次のように言うか。

我打算这星期六回国。××××

我打算下星期六回国。○○○○

「24日」に帰国する場合、次のように言うか。

我打算这星期五回国。××××

我打算下星期五回国。○○○○

「23日」に帰国する場合、次のように言うか。

我打算这星期四回国。××××

我打算下星期四回国。○○○○

「22日」に帰国する場合、次のように言うか。

我打算这星期三回国。××××

我打算下星期三回国。○○○○

「21日」に帰国する場合、次のように言うか。

我打算这星期二回国。××××

我打算下星期二回国。○○○○

「20日」に帰国する場合、次のように言うか。

我打算这星期一回国。××××

我打算下星期一回国。○○○○

この調査では全員の回答が一致した。「20日」の月曜日から「25日」の土曜日までは間違いなく“下星期…”であるようである。3のカレンダーⅠを用いた調査の結果から、「19日」の日曜日は“这星期天”であると考えられる。しかし、カレンダーⅡでは「19日」のことを普通“明天”と言るので、ここでは質問を設定していない。

「20日」に帰国する場合、筆者の語感によれば日本語では、「私はこの月曜日に帰国するつもりです」とも言える。しかし、中国語では「20日」を指して“这星期一”とは言わないという結果が出た。中国語では「20日」

の「月曜日」以降の数日間は“下星期…”である4。

今度は、今日を、カレンダーⅡの○で囲った日すなわち「18日」として、「私」なる人物がその前の1週間以内に日本から中国に来た場合である。

「11日」に来た場合、次のように言うか。

我是这星期六到的。××××

我是上星期六到的。○○○○

「12日」に来た場合、次のように言うか。

我是这星期天到的。○?○?

我是上星期天到的。×○×○

「13日」に来た場合、次のように言うか。

我是这星期一到的。○○○○

我是上星期一到的。××××

「14日」に来た場合、次のように言うか。

我是这星期二到的。○○○○

我是上星期二到的。××××

「15日」に来た場合、次のように言うか。

我是这星期三到的。○○○○

我是上星期三到的。××××

「16日」に来た場合、次のように言うか。

我是这星期四到的。○○○○

我是上星期四到的。××××

「13日」の月曜日から「16日」の木曜日まではインフォーマント全員が“这星期…”ととらえている。この“这星期…”が、「今週の…曜日」の意味か、それとも「この…曜日」の意味であるかはよく分からないが、いずれにしても“这星期…”ととらえることには何ら問題がないであろう。

しかし、「『12日』に来た場合」の結果は重大である。この結果によれば、留学生のピーターどころか、中国人同士でも誤解が生じることになる。

「12日」を“这星期天”とすることに、インフォーマントA、Cが「○」

とし、インフォーマントB, Dが「?」としている。

3で行った、今日を「15日」の水曜日とする調査では、直前の日曜日すなわち「12日」のことも、直後の日曜日すなわち「19日」のことも全員のインフォーマントが“这星期天”としたことについては既に述べた。しかし、今回の調査では直前の日曜日すなわち「12日」のことを“这星期天”とすることに対してインフォーマントB, Dの2人が「?」と回答しているのである。この2人のインフォーマントは1週間が月曜日から始まると考えているようである。「12日」を“上星期天”とすることに対して「○」の判断を下しているからである。しかし、この2人のインフォーマントが「12日」を“这星期天”とすることに対して「×」ではなく、「?」と回答しているのは“这星期天”が「今週の日曜日」という意味の他に、「この日曜日」という意味も持ち得るからではないだろうか。インフォーマント全員が次の文に対して「○」の判断を下したこともその根拠になろう。

「12日」に来た場合、次のように言うか。

我这星期天刚到。○○○○

「11日」から「16日」の間のどれかの日に来た場合、筆者の語感によれば日本語では、「私はこの前の…曜日に着きました」とも言えると思うが、「この前の…曜日」は中国語では“上星期…”で表せないようである。インフォーマント全員が「13日」から「16日」を“上星期…”と表すことに対して「×」の判断を下しているからである。インフォーマントB, Dは「12日」のことを“上星期天”としているが、これは「先週の日曜日」という意味としてであろう。中国語の“上星期…”は「先週の…曜日」という意味であって、「この前の…曜日」という意味を持たないようである。

5. カレンダーⅢを用いた調査

カレンダーⅡを用いた調査では「今日」を土曜日に指定したが、ここでを行った調査では「今日」を日曜日に指定してある。

〔カレンダーⅢ〕

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
⑫	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

「今日」を、カレンダーⅢの○で囲った日すなわち「12日」とする。そして「私」なる人物がその後の1週間以内に中国から日本に帰国しようとしている。

「19日」に帰国する場合、次のように言うか。

我打算这星期天回国。××××

我打算下星期天回国。○○○○

「18日」に帰国する場合、次のように言うか。

我打算这星期六回国。○?○?

我打算下星期六回国。×○?○

「17日」に帰国する場合、次のように言うか。

我打算这星期五回国。○○○?

我打算下星期五回国。×○×○

「16日」に帰国する場合、次のように言うか。

我打算这星期四回国。○○○?

我打算下星期四回国。×○×○

「15日」に帰国する場合、次のように言うか。

我打算这星期三回国。○○○?

我打算下星期三回国。×○×○

「14日」に帰国する場合、次のように言うか。

我打算这星期二回国。○○○?

我打算下星期二回国。×?×○

全員の回答が一致したのは「19日」を“下星期天”とする場合だけである。

この調査の結果もやはり“这星期…” “下星期…” という言葉について中国人同士の間でも誤解が起こり得ることを示している。

「19日」を“下星期天”とすることについては全く問題がないであろう。

その他の回答についてはばらつきが見られる。1週間が日曜日から始まると考えると「12日」から「18日」までは「今週」になる。しかし、1週間が月曜日から始まると考えると「13日」から「19日」までは「来週」になる。しかし、実際に言葉を使う場合にはそれほど簡単に割り切れるものではないだろう。

筆者の語感によれば、日本語で例えば、「12日」の日曜日に「今週は忙しかった」と言えば、「今週」は「6日」から「11日」を指す。しかし、またその同じ「12日」の日曜日に「今週はきっと忙しいだろう」と言ったりする場合もあるように思われる。この場合の「今週」は「13日」から「18日」を指す。日曜日という曜日は「先週の日曜日」「来週の日曜日」以外は、「先週の…曜日」「来週の…曜日」という言葉を用いにくい日であると思われる。日曜日が、1週間の最後の日なのか、最初の日なのかはつきりしない特殊な日だからである。

では、中国語ではどうであろうか。調査の結果を検討してみる。

インフォーマントAは「14日」から「18日」までのすべての日を“这星期…” ととらえているが、これは1週間は日曜日から始まるという考えに基づいて判断しているのであるか。どうもそうではないように思われる。インフォーマントAは、たとえ1週間は月曜日から始まるという考えを持っていたとしても、翌日から始まる数日間を“下星期…” という時間的隔たりを感じさせる言葉で表すことに抵抗を感じているのではないだろうか。

日本語の例は上でも挙げたが、筆者の語感によると、日本語では例えば「14日」に帰国する場合、「私は来週の火曜日に帰国するつもりです」と

は余り言わない。「私は今週の火曜日に帰国するつもりです」又は「私はこの火曜日に帰国するつもりです」と言う。「来週」という言葉に時間的隔たりを感じるからである。もし「来週の火曜日」と言えば、それは「21日」を指すようにも感じられる。これは「13日」から「18日」のすべての日についても同様である。インフォーマントAもこのような感じ方をしていないのではないだろうか。

それに対して、インフォーマントDは「14日」から「18日」までのすべての日を“下星期…”ととらえているが、これは1週間は月曜日から始まるという考えに基づいて判断しているように思われる。しかし、インフォーマントDは「14日」から「18日」を“这星期…”とすることに対して、「×」ではなく「？」と回答している。

インフォーマントCは基本的にはインフォーマントAと同じ考えに基づいて判断していると考えられるが、ただ「18日」に関しては“下星期六”を「×」ではなく「？」としている。「18日」は「12日」から6日間の時間的隔たりがあるためであろうか。

インフォーマントBは「15日」「16日」「17日」の水、木、金曜日に関しては、“这星期…”“下星期…”のどちらを使っても表すことができるとしている。「18日」に関しては“这星期六”を「？」，“下星期六”を「○」としている。“这星期六”を「この土曜日」としてとらえるとしても、「18日」では時間的隔たりが大きすぎるからであろうか。また、「14日」に関しては“这星期二”を「○」，“下星期二”を「？」としている。「14日」では“下星期二”と呼ぶには時間的に近すぎるからであろうか。

再び日本語の例を出す。筆者の語感では「14日」から「18日」まですべて「今週の…曜日」または「この…曜日」で表すことができる。この調査の場合の“这星期…”が「今週の…曜日」の意味なのか、「この…曜日」という意味なのかは決定することは難しいが、中国語では「日曜日」にその翌日の「月曜日」から始まる6日間に言及する場合には“这星期…”を使うことができると言えると思われる。インフォーマントDのような例も

あるが、インフォーマントDは「14日」から「18日」までの日を“这星期…”で表すことに「×」ではなく「？」の判断を下している。

なお、「14日」から「18日」のどれかの日に帰国する場合，“这”又は“下”を付けない次のような表現に対してはインフォーマント全員が「○」の判断を下した。

我打算星期…回国。 ○○○○

星期…我就要回国了。 ○○○○

「あなたはいつ帰国するつもりですか」という問いに対して単に「私は…曜日に帰国するつもりです」と答えれば、「…曜日」すなわち中国語の“星期…”が「次の…曜日」を指すことが明らかになるからであろう。また，“就要……了”という表現を用いれば近い未来の事柄を表していることが分かるので，“星期…”が「次の…曜日」だということがすぐに判断できるのである。

今度は、今日を、カレンダーⅢの○で囲った日すなわち「12日」として、「私」なる人物がその前の1週間以内に日本から中国に来た場合である。

「5日」に来た場合、次のように言うか。

我是这星期天到的。 ××××

我是上星期天到的。 ○○○○

「6日」に来た場合、次のように言うか。

我是这星期一到到的。 ○○○○

我是上星期一到到的。 ××××

「7日」に来た場合、次のように言うか。

我是这星期二到的。 ○○○○

我是上星期二到的。 ××××

「8日」に来た場合、次のように言うか。

我是这星期三到的。 ○○○○

我是上星期三到的。 ××××

「9日」に来た場合、次のように言うか。

我是这星期四到的。○○○○

我是上星期四到的。××××

「10日」に来た場合、次のように言うか。

我是这星期五到的。○○○○

我是上星期五到的。××××

この調査では、インフォーマント全員の回答が一致した。「6日」から「10日」のすべての日が“这星期…”ととらえられている。日本語ではこれらの日を「この前の…曜日」と言うことも可能だが、中国語ではその意味で“上星期…”を使うことはできない。

6. カレンダーⅣを用いた調査

最後に行った調査では「今日」を月曜日に指定した。

[カレンダーⅣ]

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	⑬	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

「今日」を、カレンダーⅣの○で囲った日すなわち「13日」とする。そして「私」なる人物がその後の1週間以内に中国から日本に帰国しようとしている。

「20日」に帰国する場合、次のように言うか。

我打算这星期一回国。××××

我打算下星期一回国。○○○○

「19日」に帰国する場合、次のように言うか。

我打算这星期天回国。○○○○

我打算下星期天回国。××××

「18日」に帰国する場合、次のように言うか。

我打算这星期六回国。○○○○

我打算下星期六回国。××××

「17日」に帰国する場合、次のように言うか。

我打算这星期五回国。○○○○

我打算下星期五回国。××××

「16日」に帰国する場合、次のように言うか。

我打算这星期四回国。○○○○

我打算下星期四回国。××××

「15日」に帰国する場合、次のように言うか。

我打算这星期三回国。○○○○

我打算下星期三回国。××××

この調査ではインフォーマント全員の回答が一致した。「19日」の日曜日までが“这星期…”ととらえられている。このことは既に何度も述べた。

今度は、今日を、カレンダーⅣの○で囲った日すなわち「13日」として、「私」なる人物がその前の1週間以内に日本から中国に来た場合である。

「6日」に来た場合、次のように言うか。

我是这星期一到的。××××

我是上星期一到的。○○○○

「7日」に来た場合、次のように言うか。

我是这星期二到的。××××

我是上星期二到的。○○○○

「8日」に来た場合、次のように言うか。

我是这星期三到的。××××

我是上星期三到的。○○○○

「9日」に来た場合、次のように言うか。

我是这星期四到的。×○××

我是上星期四到的。○○○○

「10日」に来た場合、次のように言うか。

我是这星期五到的。×○××

我是上星期五到的。○○○○

「11日」に来た場合、次のように言うか。

我是这星期六到的。○○××

我是上星期六到的。×?○○

1週間が月曜日から始まると考えても、あるいは日曜日から始まると考えても、「6日」の月曜日から「11日」の土曜日は間違いなく「先週」に属する。このことについては誰も異論がないであろう。しかし「11日」を“上星期六”とすることに対して、インフォーマントAは「×」の判断を、またインフォーマントBは「?」の判断を下している。これは実際に言葉を使う場合の問題と関係があるように思われる。

筆者の語感によれば、日本語では「11日」に着いた場合「私は先週の土曜日に着きました」とは余り言わず、「私はこの土曜日に着きました」と言う。「月曜日」に、その2日前の「土曜日」を指して「先週」という言葉を用いることに抵抗を感じるからである。「先週」という言葉が時間的隔たりを感じさせるからであろう。「私はこの土曜日に着いたばかりです」と言えばもっとぴったりとする。

中国語でも次の表現ならばインフォーマント全員が「○」の判断を下した。

「11日」に来た場合、次のように言うか。

我这星期六刚到。○○○○

再び日本語の例を出す。日本語では「11日」に着いた場合、「私は今週の土曜日に着いたばかりです」とはまず言わない。「11日」が「先週」に属することは明らかだからである。このように考えるとインフォーマント全員が「○」の判断を下した“我这星期六刚到”の“这星期六”は「今週の土曜日」という意味ではなく、「この土曜日」の意味であると考えら

れる。

上の調査で、インフォーマントBは「9日」の木曜日と「10日」の金曜日も“这星期…”で表すことができるとしているが、これも「この木曜日」「この金曜日」という意味としてであろう。“这星期…”で指す範囲には個人差があるようである。インフォーマントC、Dは「6日」から「11日」までのすべての日を“这星期…”とはとらえず、“上星期…”ととらえている。

7. おわりに

以上，“上星期…” “这星期…” “下星期…” の実際場面での使い方について見てきた。日本語の「先週の…曜日」「今週の…曜日」「来週の…曜日」という言葉を日本人は普段何気なく使っている。しかし、また一方では「この前の…曜日」「この…曜日」「次の…曜日」「今度の…曜日」という言葉も多用する。

中国語には基本的には“上星期…” “这星期…” “下星期…” という言い方しかない。このうち“这星期…” が「今週の…曜日」という意味の他に、「この…曜日」という意味で使われることがあるのではないかと思っただことが本稿作成のきっかけとなった。

今「中国語には基本的には“上星期…” “这星期…” “下星期…” という言い方しかない」と言った。中国語にも他に“上一个星期…” “这一个星期…” “下一个星期…” という言い方があるが、これらは“上星期…” “这星期…” “下星期…” とほぼ同義だと考えられるからである⁶⁾。しかし、特殊な状況では意味が異なる場合もある。

例えば、過去のカレンダーのある金曜日を指して、過去の出来事について次のように言う場合である。

我不是这星期五到的，是上一个星期五到的。（私はこの金曜日に着いたのではなく、その1週間前の金曜日に着いたのです）

我不是这星期五到的，是下一个星期五到的。（私はこの金曜日に着いたのではなく、その1週間後の金曜日に着いたのです）

これらの例における“上一个星期五”“下一个星期五”は“上星期五”“下星期五”に置き換えることはできない。このことから“上星期…”“下星期…”は「先週の…曜日」「来週の…曜日」という意味でしか使われないことが分かる。また、これらの例における“这星期五”は明らかに「今週の金曜日」という意味ではなく、「この金曜日」の意味である。

日本で最もよく使われていると思われる中国語辞典でも“上星期”“下星期”は「先週」「来週」という意味で収録されているが、“这星期”は収録されていないか。このことだけから“这星期”は1語ではなく“这”と“星期”の2語であると即断することはできないが、“这”と“星期”の結合力は“上星期”“下星期”ほど強くないように思われる。

語構成の面から見ると，“上星期…”“下星期…”は“上星期”“下星期”に“…”が加えられたものと考えられる。

上星期…→上星期／…（例えば“上星期五→上星期／五”）

下星期…→下星期／…（例えば“下星期五→下星期／五”）

しかし，“这星期…”は“星期…”の前に“这”が加えられたものなのではないか。

这星期…→这／星期…（例えば“这星期五→这／星期五”）

こう考えると，“这星期…”が、明らかに「今週」に属さない日を指し得ることが理解できる。ただし，“这星期…”が指し得る日は人によって異なる。また、中国語ではその直後の日曜日を越えて指すことはないようである。直後の日曜日を越えると、中国語では“下星期…”で表すことは本稿の調査から明らかになった。

また，“上个星期…”“这个星期…”“下个星期…”という言い方もあるが、これらも“上星期…”“这星期…”“下星期…”とほぼ同義であると思われる。あるいは微妙な違いがあるかもしれないが、本稿では扱わないことにする。

注

- 1) 北京语言学院出版社《学汉语》1992. 6. 26-27頁。
- 2) すべて30-40歳代の中国北方出身の中国人である。本稿で扱った問題は極めて微妙な問題であり、インフォーマントが判断に苦しむ場合が多々あった。従ってインフォーマントの氏名は明記しないが、本稿に挙げた調査結果は最終的には責任を持って提供していただいたものである。
- 3) 4人のインフォーマントに確認しただけであるが、中国人は一般的に1週間は月曜日から始まると考えているとのことである。筆者が日本人の大学生約150人に口頭で調査したところ、漠然とはあるが1週間は月曜日から始まると考える者と、日曜日から始まると考える者はほぼ同数であった。
- 4) 「26日」については調査を行っていない。
- 5) 日本人の大学生約150人に口頭で調査したところ、日曜日に「今週はきっと忙しいだろう」と言うことに対して、数名が異論を唱えた。彼らは「来週はきっと忙しいだろう」と言うこと答えた。
- 6) “星期”の他に“礼拜”という語もあるが、“星期”と“礼拜”は同義であり、本稿の“星期”を“礼拜”に置き換えても論旨に影響はない。
- 7) 『現代中国語辞典』光生館、『中日辞典』小学館、『中日大辞典』大修館書店、『中国語大辞典』角川書店。これら4つの辞典では、“上”“下”と“星期”を分かち書きしない“shàngxīngqī”“xiàxīngqī”というピンイン表記で“上星期”“下星期”が収録されているが、“这星期”は収録されていない。